

氏名	葛 西 洋 介
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4914 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Type D Personality Is Associated with Psychological Distress and Poor Self-Rated Health among the Elderly: A Population-Based Study in Japan (高齢者における Type D 気質と心理的苦痛および主観的健康との関連：日本における地域人口ベースの研究)
--------	--

論文審査委員	教授 荻野 景規 教授 佐藤 勝 准教授 寺田 整司
--------	----------------------------

#### 学位論文内容の要旨

Type D 気質は、negative affectivity (否定的な感情や視点、考えを抱きやすい傾向) と social inhibition (他者からの否認や非難などを恐れるため、否定的な感情を表現できない傾向) を併せ持った気質とされ、有している人はうつ病、PTSD などの精神疾患やメタボリックシンドロームや心疾患などの身体的疾患に罹患しやすいと言われている。これまで日本では Type D 気質に関する研究はなく、アジアにおいても一般人のみを対象にした研究はなかった。また世界的に見ても高齢者における Type D 気質の研究はなかった。今回、日本人高齢者における Type D 気質と心理的苦痛および主観的不健康の関連を調査した。

本研究では、一般人を対象にした先行研究 (18.1%-38.5%) に比べて Type D 気質を有する割合が 46.3% と高いことが示された。また、日本人高齢者では男女ともに、Type D 気質を有する者は有しない者に比べて、オッズ比が有意に心理的苦痛で 4 倍以上、主観的不健康で 2 倍以上に高くなることが示唆された。特に 75 歳以上に比べて 65-74 歳の方がよりオッズ比が高くなり、さらには、気分障害などの精神疾患に関する、より重篤な心理的苦痛へのリスクは 9.92 倍と著しく高くなり、定年退職直後の方などで注意する必要があると思われる。

#### 論文審査結果の要旨

日本人高齢者における Type D 気質と心理的苦痛および主観的不健康の関連を調査するために、2010 年 8 月に岡山県内の 3 市町の 65 歳以上の住民 21232 名を対象に、自記式質問紙法で調査を行った。解析方法は、否定的感情 7 項目と社会的抑制 7 項目からなる全 14 項目の指標 (DS14) による Type D の気質と、K6 による心理的苦痛及び主観的健康度 (健康、不健康) との関連性をロジスティック回帰分析により行った。その結果、本研究の高齢対象者は、Type D 気質を有する割合が 46.3% と高いことが示された。また、Type D 気質は、心理的苦痛及び主観的不健康と、非常に高い関連を示すことが判明し、その関係は 75 歳以上に比べて、65-74 歳の方が高かった。さらに Type D 気質は、より重篤な心理的苦痛と、密接な関係にあることがわかった。以上より、本研究は、日本人高齢者の Type D 気質と健康の関連性を検討した価値ある研究であると評価された。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。